

平成19年8月29日に徳島県徳島市で発生した突風について
(現地調査結果の報告：第1報)

8月29日に徳島市国府町で発生した突風について、29日14時40分頃より徳島地方気象台突風機動調査班が現地調査を実施しました。その結果は、以下のとおりです。

1. 突風の原因

徳島市国府町で発生した突風は、以下の根拠により、竜巻によるものと推定されます。

- (1) 竜巻を撮影した映像があった。
- (2) 発生時刻・発生場所付近に強い雨雲が観測された。
- (3) 被害地域の形状は、長さ約1.5km、幅約30mの細長い帯状であった。
- (4) 被害から推定した風向分布に収束性が見られた。
- (5) 聞き取り調査により、「漏斗雲を見た」「いろんな物がぐるぐる回り空を飛んでいた」という証言を得た。

2. 竜巻の発生時刻、場所と強さ

目撃証言や停電の情報から、竜巻は13時20分頃に徳島市国府町付近で発生し、東へ移動したと推定されます。

「小枝が折れた」「住宅等のスレート瓦やトタンの屋根が壊れた」「ビニールハウスが一部壊れた」などの被害状況から、竜巻の強度は藤田スケールでF0程度(別表参照)と推定されます。

本件の問い合わせ先
徳島地方気象台 技術課
電話 088-622-3857

【参考】竜巻とは

竜巻とは、積乱雲または積雲に伴って発生する鉛直軸をもつ激しい渦巻きで、しばしば漏斗状または柱状の雲（「漏斗雲」といいます。）を伴っています。また、竜巻の中心では周囲より気圧が低くなっていますので、地表面の近くでは風は渦に向かって内側に、普通は反時計回りの方向に回転しながららせん状に吹き込み、漏斗雲の中に急速に巻き上がっていきます。

別表 竜巻の風速階級表（藤田のスケール）

階級	風速(m/s)	被害状況
F 0	17～32 (約 15 秒間の平均風速)	煙突やテレビのアンテナが壊れる。小枝が折れ、また根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。
F 1	33～49 (約 10 秒間の平均風速)	屋根瓦が飛び、ガラス窓は割れる。またビニールハウスの被害甚大、根の弱い木は倒れ、強い木の幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると道から吹き落とされる。
F 2	50～69 (約 7 秒間の平均風速)	住家の屋根がはぎ取られ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、またねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、また汽車が脱線することがある。
F 3	70～92 (約 5 秒間の平均風速)	壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨造でもつぶれる。汽車は転覆し、自動車が持ち上げられて飛ばされる。森林の大木でも大半折れるか倒れるかし、また引き抜かれることもある。
F 4	93～116 (約 4 秒間の平均風速)	住家がバラバラになってあたりに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨造でもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十mも空中飛行する。1t以上もある物体が降ってきて、危険このうえない。
F 5	117～142 (約 3 秒間の平均風速)	住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮は剥ぎ取られてしまったりする。自動車・列車などが持ち上げられて飛行し、とんでもない所まで飛ばされる。数tもある物体がどこからともなく降ってくる。